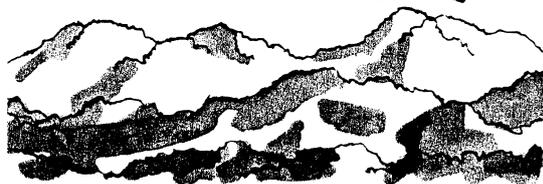


お国自慢



荇原環境プラント(株)

倉浜衛生施設組合
沖縄市・宜野湾市・北谷町

国際色豊かな観光都市

…… エコトピア池原（熱回収施設） ……

1. はじめに

倉浜衛生施設組合は、沖縄本島の中部都市圏を形成する沖縄市・宜野湾市・北谷町の2市1町で組織され、これらの地域から排出される一般廃棄物（ごみ）の共同処理を目的に昭和44年12月26日付で設立された一部事務組合です。当初はごみの共同処理を目的に、構成市村の名称を冠して「コザ市・宜野湾市・北谷村清掃施設組合」として発足しました。

昭和52年に、し尿の適正処理の観点から宜野湾市伊佐浜地先へし尿処理場を建設し、その際に、ごみ焼却処理場の所在する沖縄市倉敷の「倉」と、し尿処理場の所在する宜野湾市伊佐浜の「浜」を組み合わせ、組合名称を「倉浜衛生施設組合」と改め、し尿処理を含めた一般廃棄物の共同処理を目的に運営されています。

2. エコトピア池原（熱回収施設）について

循環型社会の実現に向けた総合的な取り組みの拠点として、エコループ池原（リサイクルセンター）とともに、平成19年3月に建設を開始し、平成22年3月に竣工しました。平成22年4月から、本格稼働を行っております。

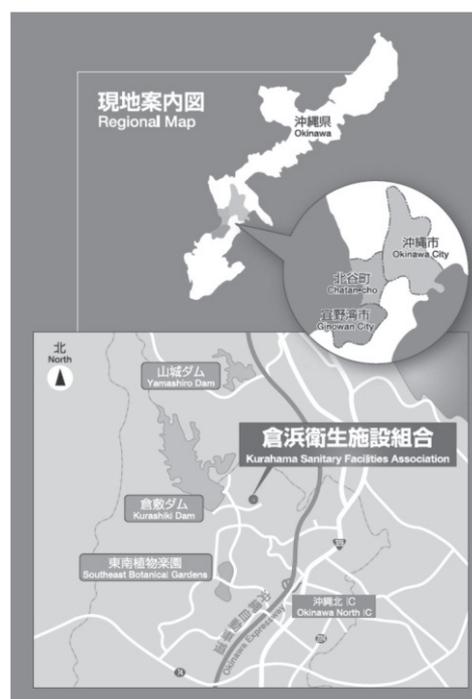
本施設では流動床式ガス化溶融方式を採用しております。この方式は、未酸化状態の鉄やアルミの回収が可能なことや、灰をスラグ化して道路舗装等に利用できるなどのメリットがあります。また、ごみ処理の過程で発生した熱エネ

ルギーにて発電を行い、施設内の電力を賄っています。余剰電力は電力会社に売電しています。

同じ敷地内にあるエコループ池原では資源ごみを資源化するため、異物の除去や、圧縮・梱包などの処理が行われております。

エコトピア池原とエコループ池原では見学者用設備を備えており、処理工程や機器の役割などを、楽しみながら学ぶことができます。

本施設の愛称である「エコトピア池原」「エコループ池原」「エコボウル倉浜（最終処分場）」は、新ごみ処理施設建設に伴い一般から応募し、決定しました。



倉浜衛生施設組合位置図



エコトピア池原（熱回収施設）の概要

所在地：沖縄県宇池原 3394 番地
 工期：平成 19 年 3 月 26 日～
 平成 22 年 3 月 21 日
 炉形式：流動床式ガス化溶融炉

処理能力：309t/日 (103t/24h × 3 炉)
 施工監理：八千代エンジニアリング(株)九州支店・(有)エン
 設計 JV
 設計施工：荏原環境プラント(株)・(株)仲本工業・光南建設
 (株)JV

エコループ池原（リサイクルセンター）の概要

所在地：沖縄県宇池原 3394 番地
 工期：平成 19 年 3 月 26 日～
 平成 22 年 3 月 31 日
 施設規模：82t/日 (5h)
 施工監理：八千代エンジニアリング(株)九州支店・(有)エン
 設計 JV
 設計施工：新明和工業(株)・玉鐵建設(株)JV

構成市町の紹介

沖縄市

1974 年（昭和 49 年）4 月 1 日、戦後基地の街として急速に発展したコザ市と、中城湾港を望む緑豊かな美里村が合併し、沖縄市が誕生しました。

同年 10 月 26 日には、「健康で美しい沖縄市」「明るくて住みよい沖縄市」「平和で豊かな沖縄市」を市民の願い、望み、目標とする、「国際文化観光都市」を宣言しました。その後、まちづくりの柱として、「スポーツコンベンションシティ」、「エイサーのまち」、「こどものまち」などを宣言し、本市の特色を活かしたまちづくりに取り組んでいます。

また、米国や中国、南米など約 40 カ国余の外国人が住み、生活習慣や言語等、多様な文化が混在する国際色豊かなまちです。

沖縄を代表する夏の風物詩「沖縄全島エイサーまつり」、世界の優れた舞台と出合いがこどもの感性を輝かせる「国際児童青少年演劇フェスティバル（キジムナーフェスタ）」、県内最大のロックイベント「ピースフルラブ・ロックフェスティバル」など、沖縄県を代表する祭りやイベントを開催しています。

沖縄本島の中央部に位置し、南部圏域と北部

圏域を結ぶ国道 330 号と国道 329 号が交差する交通の要衝となっています。

主な施設として、本格的な動物園を有する沖縄こどもの国をはじめ、コザ・ミュージックタウンや沖縄県総合運動公園など、広域的な施設が集積しています。

- ◆ 人口 137,260 人(平成 24 年 4 月 1 日現在)
- ◆ 面積 49.00km²(平成 23 年 10 月 1 日現在)



全島エイサー祭り



キジムナーフェスタ



コザ・ミュージックタウン

宜野湾市

宜野湾市は、沖縄本島中南部の東シナ海に面し、北は北谷町、東に中城村、北東には北中城、南東には西原町、南には浦添市と面しています。

那覇市より北に12km、沖縄市より南に6kmの地点にあり、市内をドーナツ状に国道58号、国道330号、県道宜野湾北中城線、県道34号が通り、さらに沖縄自動車道の北中城インターチェンジへもつながりが容易な沖縄本島の中部及び北部を結ぶ交通上の重要な地点に位置しています。

はごろも祭りは、毎年8月に開催される市最大のイベントです。中でも約千人余の老若男女が出演するカチャーシー大会は圧巻で、見る人を巻き込むほどの迫力を持っています。

沖縄コンベンションセンターが立地する本市は、「国際会議観光都市」西海岸地域が「観光

振興地域」に指定され多彩なイベントの主会場として利用され、年間5百万人が訪れています。

宜野湾市は県内でも有数の田いもの産地その田いもを使ったお菓子や料理、染物などは本市の特産品となっています。

- ◆ 人口 94,672人(平成24年4月1日現在)
- ◆ 面積 19.70km²(平成23年10月1日現在)



はごろも祭りのカチャーシー大会



沖縄コンベンションセンター



田いも畑と田いも

北谷町

北谷町は県都那覇市から約16kmの沖縄本島中部に位置し、町の東部から中央部は丘陵地をなし西部は平坦で国道58号が南北に通過しています。

近年は、公有水面埋立や返還軍用地の跡地利用による西海岸一帯の開発意欲が旺盛で、特に進出企業との共同で開発を進めている美浜アメリカンビレッジの進展に伴い、沖縄県内でも「賑わいのあるエリア」として高い評価を受けております。また、町水産業の振興を目的としたフィッシャリーナ整備事業が推進されており、東シナ海に面する宮城海岸はサーフィン、ダイビングなどのマリンスポーツのメッカとして人気のエリアです。

町外から多くの人を訪れる西海岸地域とは対照的に、国道58号を境として東側の地域は閑静な住宅地となっております。憩いの場となる近隣公園や緑地の整備が進み、また、昔からの町並みや自然も残る中で町民が快適に暮らしています。

産業については、卸小売業や飲食店などの第三次産業が主になっており、大型ショッピングセンターや衣料・雑貨等のオリジナル専門店の進出がめざましい。また、地場産業の成長も著しく、泡盛の「北谷長老」や泡盛用黒麹製造、「ちゃたんの塩」、「サンニン水まんじゅう」など、特産品が多数あります。

文化面では、キャンプ桑江北側にある伊礼原遺跡が2009年、国史跡に指定されました。同遺跡は縄文時代前期の低湿地区と中期から晩期の砂丘区からなる複合遺跡で、数々の遺構・遺物が出土しております。

◆ 人口 28,094人(平成24年4月1日現在)

◆ 面積 13.78km²(平成23年10月1日現在)

※写真は、沖縄市・宜野湾市・北谷町の提供による。



美浜アメリカンビレッジ



フィッシャリーナ整備事業 (完成予想図)



伊礼原遺跡